

# 韓国語名詞句の有生性階層<sup>1</sup> — 助詞「에게 (ege)」・「에 (e)」との 接続関係を中心に

金 亨 貞

## 1. 有生性と有生性の階層

### 1.1. 階層的な範疇としての有生性

本稿は、韓国語の助詞「에게 (ege)」・「에 (e)」<sup>2</sup>と先行名詞句との接続関係を分析し、韓国語名詞句における有生性階層 (animacy hierarchy) を立てることを目的とする。また、有生性の階層に関与する諸特性についても具体的に記述したい。

有生性に関する先行研究を見ると、有生性は格標示、語順、主語選択、主題化、数の区別、動詞の一致など、様々な文法現象に関連していることがわかる。また、このような現象は、世界の多くの言語において普遍的に現れる<sup>3</sup>。韓国語において、有生性と最も密接な関連性を示す文法現象は、助詞「에게」と「에」の実現である。「에게」と「에」の選択は韓国語で名詞句の有生性の度合を表す最も直接的な標識である。にもかかわらず、有生性と助詞「에게・에」の相関性を検討した研究はほとんど見あたらない。一般的には先行名詞句が有生物名詞句であるか無生物名詞句であるかによって二者択一される対応形態であると考えてきたが、これは有生性を [+有生] : [-有生] の二分的素性 (binary features) の範疇と考える伝統的な観点を何の疑いもなく受け入れたためである。本稿は、有生性という意味属性が果たして明確な境界を持っている二分的素性の範疇なのか、という疑問から始まる。次の例を見てみよう。

- (1) a. 아이가 인형에게 옷을 입히며 놀고 있다.  
 b. … 복지부는 WHO에게 확인을 요청한 바 있다.  
 c. 상희, 꽃에 물 주고 있다.  
 d. 모기에 물린 상처이다.<sup>4</sup>

(1a)で「인형 (人形)」は無生物であるが、人と類似した外見を持っており、しばしば有生物のように扱われる。このため、助詞「에게」が接続されたのである。(1b)の「WHO」は、組織名であり、有生物ではないにもかかわらず、「에게」が接続されている。この文のWHOは組織そのものを指すのではない。そこで働いているスタッフにある問題について確認をするという意味である。このように人間を成員として構成された集団を表す名詞の場合は、その集団に属している成員の行動や考えを代表し、有生物のように使われることがある。(1c)の「꽃 (花)」は、生物学的基準では明らかに生物であるが、助詞「에」が接続されている。植物は動く能力がなく、他の無生物個体と同様にある固定された場所を前提とする点で、場所性を強く帯びる。ここでも、人間から水を受け取る相手というよりは、単純に水が到達する到着点としての意味が強い。(1d)の「모기 (蚊)」も生物であるが、「에」が接続されている。蚊などの昆虫類は、生物学的に人間と遠距離にあるため、それらが生物であるという認識が弱くなり、このように助詞の使用に混乱が生じることがある。

生物か無生物かというのは、「有生性」の判断において第一の基準である。しかし、(1)の例文を通じて、この基準によっても名詞句を有生と無生（[-有生]）の二種類に分けることは非常に困難であることがわかる。本稿では、有生性をその境界が明確な二分的素性の範疇ではなく階層的な範疇として扱う。また、これらの階層は断続的ではなく、「原形性 (prototype)」と「程度性 (degree)」を持って、連続的に現れる。

## 1.2. 名詞句の有生性階層に関する諸研究

欧米の多くの研究者は、名詞句が持っている階層性に注目してきた。名詞句が階層性を持っているという認識の下で行われた最初の記述は、Silverstein

(1976)で見られる。Silverstein (1976)によると、文の成立において、名詞句の階層でより高い位置にある名詞句が主語の位置に立つ文構造が優先されるといふ。Dixon (1979:85)もこれと類似した発想から「動作者としての可能性 (potentiality of agency)」の階層を提示した。「1人称代名詞 > 2人称代名詞 > 3人称代名詞・指示詞 > 固有名詞 > 普通名詞 (人間 > 有生 > 無生)」の階層がそれである<sup>5</sup>。Silverstein (1976)とDixon (1979)の研究から、名詞句にはある種の階層があり、その階層は格の選択や語順、動作者生など、文法の様々な現象に反映していることがわかった。

Foley and Van Valin (1984:288)は、指示対象の内在的属性によって決定される名詞句の情報地位 (information status) に基づいて、名詞句の有生性階層を「話し手・受信者 > 3人称代名詞 > 人間固有名詞 > 人間普通名詞 > 他の有生名詞 > 無生名詞」のように設定している。

Croft (1990:113)は、有生性階層について、不連続的な範疇ではなく、最も有生的なものから最小限有生的なものまでの範囲を持つ連続的範疇として把握している。Croft (1990:111-112)は名詞と代名詞との間に現れる数の区別での制約や動詞の一致パターンに基づいて、「1人称・2人称代名詞 > 3人称代名詞 > 人間固有名詞 > 人間普通名詞 > 人間以外の有生普通名詞 > 無生普通名詞」のような有生性階層を提案する。

Croft (1990:112-113)は、有生性階層が3つの文法領域と関係していると見た。以下の「人称階層、名詞句階層、厳密な意味での有生性階層」がそれである。

- ① 人称階層 (person hierarchy) : 1人称と2人称代名詞は3人称代名詞より階層が高い。
- ② 名詞句階層 (NP-type hierarchy) : 代名詞は普通名詞より階層が高い。
- ③ 厳密な意味での有生性階層 (animacy hierarchy proper) : 人間普通名詞は人間以外の有生名詞より階層が高い。そして、人間以外の有生名詞は無生普通名詞より階層が高い。

Silverstein (1976)、Dixon (1979)、Foley and Van Valin (1984)、Croft (1990)は、いずれも形態的・意味的な諸現象と関連して名詞句の階層を定義してい

る。これに対して、有生性に内在する人間の主観的な認識の面を重視しつつ、認知言語学的観点から有生性を定義し、その階層を立てようとした立場もある。

Langacker (1991:306-7) は、一般的に「有生性階層」と呼ばれていたものを「感情移入 (empathy) の階層」に置き換えた。Langackerによると、感情移入の階層は、「世界に存在する様々な種類の個体に対する人間中心の評価」を反映しているという。各個体に対してどのくらいの感情移入ができるかという潜在性によって、すなわち好感や共通の関心事のような要素を基準にして、周辺の個体を序列化するということである。Langacker (1991) は言語の形態的・意味的特徴ではなく、人間が他の個体に対して持つ主観的認識の違いに基づいて、感情移入の階層を設定する。「話し手 > 聞き手 > 人間 > 動物 > 物理的個体 > 抽象的個体」の階層がそれである。

Yamamoto (1999) も、基本的に認知的観点から有生性を定義した研究であり、有生性階層は人間の認知の産物であることを強調している。Yamamoto (1999) は、有生性階層に関連する3つのパラメータとして「一般有生性尺度 (General Animacy Scale)、人称階層 (Hierarchy of Persons)、個体化尺度 (Individuation Scale)」を挙げている。一般有生性尺度と人称階層はそれぞれ Croft (1990) の厳密な意味での有生性階層と人称階層に該当する。個体化尺度は、Croft (1990) の名詞句階層と類似しているものの、代名詞と普通名詞との関係のみならず、より幅広い範囲で定義されている。Croft (1990) と Yamamoto (1999) は、アプローチの方法においては違いがあるが、結果としての有生性階層は類似している。

有生性階層は、(厳密な意味での) 有生性のみならず「個別性 (individuation)、指示性 (referentiality)、定性 (definiteness)、単数性 (singularity)」などの特性が絡みあう、より複合的な構造となっている。Langacker (1991) で有生性階層の代わりに「感情移入の階層」という用語を使用したことや、他の研究で「主題としての可能性 (topicworthiness)」または「個別性」や「顕著性 (salience)」を有生性を成す原始的な概念に設定しようと試みたことは、いずれもこのような理由に起因する。しかし、Comrie (1981;1989:197-199) で指摘したように、有生性階層とは、厳密な意味での有生性を含め、任意の単

一の特性に還元されるものではない。名詞句に存在するこの階層は、複数の特性の自然な相互作用を反映しており、これらの特性は互いに密接に関連しているながらも、互いに還元不可能な個別的な違いも見せている<sup>6</sup>。

韓国語を対象に有生性の問題を本格的に扱った研究はそれほど多くない。有生性と韓国語の文法現象に関する代表的な議論は、Klaiman (1988、1991)、Palmer (1994)、연재훈 (1995)、스테판크늑 (2008) などによる韓国語の能動文と受動文における「無生物主語制約仮説」である。これらの研究は、機能類型論的文法の観点から行われてきた有生性と主語選択の関連性についての議論の延長線上に位置づけられるものである。文が構成される際、有生性が高い名詞句を主語に立てようとする文法的メカニズムが作用するということが基本的な仮説である。多くの言語で見られる現象であるが、韓国語の能動文と受動文において、これらの傾向がより明示的に現れるため注目を浴びたのである。

一方、김은일 (2000) は、有生性が韓国語の文法体系において、どのように言語的に符号化されるかについて調べた研究である。例えば、英語では人間、物のいずれにも「bring」が用いられるが、韓国語では人間の場合は「데리고 오다 (連れてくる)」、物の場合は「가지고 오다 (持ってくる)」を用いるということである。유현경 (2007) では、韓国語において有生性の素性が、助詞「에게」の出現と関連してどのように言語的に符号化されるかについて記述している。유현경 (2007) は、助詞「에게」を「接続する名詞の[有生性]の素性に対する話し手の判断を示す標識」とした。「에게」の出現において「話し手の判断」という様態的条件を重視する見解は、本稿の議論を進める上で重要な示唆を与えてくれた。

### 1.3. 韓国語名詞句の有生性階層についての前提

本稿では、韓国語の名詞句においても有生性と関連する一定の階層が存在することを証明したい。本格的な議論に先立ち、本稿で有生性と有生性の階層に関してどのようにアプローチしていくのかについてその前提を述べておく。

- 1) 有生性を判断する際の最も重要な基準は生物か無生物かということ

ある。このことが反映された概念が「有生物名詞句」と「無生物名詞句」という伝統的な用語であり、本稿でもこれらを採用する。ただし、言語学的現象に關与する有生性は、自然科学での生物と無生物の区別と完全に一致するわけではない。生物である「植物」が脈絡によっては無生物のように扱われることもあり、「人形、ロボット」などの無生物が有生物のように認識されることもある。また、有生物か無生物かという命名自体が対立性を帯びているため、有生性の「階層」という概念とは矛盾する部分がある。したがって本稿では、「有生物名詞句」と「無生物名詞句」をそれぞれ「有生性の度合が高い名詞句」、「有生性の度合が低い名詞句」の意味で使用することにする。また、この2つの範疇の境界が曖昧であることを反映し、「有生物と無生物の境界的名詞句」という範疇を設定する。

2) 有生性は、人間中心的価値が反映された階層である。世界に存在する様々な個体に対する有生性を判断するのは人間（より正確に言えば、判断の主体としての「私」）であり、人間と似ていると感じるほどより有生的な存在として認識する。「机」や「リンゴ」より「犬」や「猫」を有生的であると判断することや、実存する存在でないにもかかわらず「化け物、ゼウス」などを有生物として扱うことはこのためである。したがって、本稿では有生物名詞句を中心的有生物である「人間有生物名詞句」と周辺の有生物である「人間以外の有生物名詞句」（犬、猫、化け物、ゼウスなど）に分けて、それぞれの特徴を検討する。

3) 先行研究では人間有生物名詞句の中でも様々な階層が存在すると見ている。例えば「人称代名詞は人間普通名詞より階層が高い」、「人間固有名は人間普通名詞より階層が高い」、「1人称と2人称代名詞は3人称代名詞より階層が高い」などがそれである。これを基に本稿でも人間有生物名詞句を「人称代名詞、人間固有名、人間普通名詞」の3つに分けて、有性階層での相互関係を考察する。

以下では、助詞「에게・에」と先行名詞句との接続関係について多角的分析を実施し、韓国語における有性階層を明らかにする。研究方法としては、コーパス用例に対する意味的・形態的分析という質的な側面での検討と用例の分布調査および統計的検定などの量的な側面での検討を併用する。

## 2. 「에게・에」と接続する先行名詞句についての 意味的・形態的分析

ここでは、上記で設定した各名詞句の形態的・意味的特徴は何か、また助詞「에게・에」との接続上の特徴は何かを検討する。こうした質的分析を通じて、どのような特性が該当名詞句の有生性の判断や助詞「에게・에」との接続に影響を与えるかがより明らかになるであろう。

### 2.1. 有生物名詞句

#### 2.1.1. 人間有生物名詞句

##### 2.1.1.1. 人間固有名

人間固有名は、個人の名前あるいは姓、つまり人名を示すものである<sup>7</sup>。「난희 (ナンフィ)、김상진 (金サンジン)、김대업 씨 (金テオブさん)、이상곤옹 (李サンゴン翁)」などがこれに当たる。「김대중 대통령 (金大中大統領)、하시모토 총리 (橋本首相)、문 부장 (文部長)」などは、「固有名+普通名詞」の複合構成であるが、肩書きや役職を示す普通名詞ではなく、前の固有名がこの名詞句の性格を決定する主要部であると判断されるため、固有名に分類した。人間固有名は、人間普通名詞より個別性<sup>8</sup>の度合いが高い。「李ジウン」という名前を持つある女性が、話し手には叔母になり、職業は弁護士であり、映画同好会の会長であると仮定してみよう。

(2) {이지은에게/고모에게/변호사에게/동호회 회장에게} 편지를 썼다.

「叔母、弁護士、同好会会長」のような親族名詞や役職を示す名詞は「李ジウン」という人が社会や家族関係の中で持つある役割や機能を指すものであり、「李ジウン」という個人が持つ様々な面の中で一部だけを表わしている。それに対して、「李ジウン」という固有名は、その人自体を全体として指示することになる。指示対象にどのくらい近いかという観点から見ると、人間固有名は他の名称に比べ、現実に存在する指示対象の本質により近似した一致度を見せている。つまり人間固有名は、他の人間普通名詞に比べ、「個

別性」が高く、したがって人間普通名詞より有生性階層でより高い位置にあると言える。

一方、新聞や雑誌の記事、社説、コラムなどで特殊な例として人間有生物名詞句に助詞「에」が接続された例がいくつか見られる。人間固有名が大部分であり、以下の(3)がそれである。

- (3) a. 대법, 강기훈 씨에 3년형 … 재야 항의 시위  
 b. TV시사평론가 뷰캐년(57)은 비록 돌후보에 3% 차이로 졌지만 …  
 c. 현대 전준호가 한국시리즈 톱타자 대결에서 LG 유지현에 크게 앞서고 있다.

(3a)の「강기훈 씨 (カンキフンさん)」は、人間固有名であるが、「에게」ではなく「에」が接続されている。「에게」の代わりに「에」を使用することによって、読者の注意を喚起する効果を持つことになる。短くて圧縮的なメッセージで読者の注目を集めなければならないヘッドラインの特性から始まった言語的装置が新聞や雑誌の文体として定着したのではないかと考えられる。(3b)、(3c)の「돌후보 (ドール候補)」と「유지현 (ユチヒョン)」も、人間固有名にもかかわらず、いずれも「에」が接続されている。(3a)と同様に、新聞や雑誌の文体的特性であると思われる。主に勝敗に関連する事態を述べている文でこのような例が多く見られるという点が特徴的である。

### 2.1.1.2. 人称代名詞

助詞「에게」が接続された代名詞としては、1人称の「나 (私)、저 (わたくし)、우리 (私たち)、저희 (私ども)」、2人称の「너 (あなた、君)、너희 (君たち)、여러분 (みんな)」、3人称の「그 (彼)、그녀 (彼女)、그분 (その方)、그들 (彼ら)」、否定と疑問の「아무 (誰)、누구 (誰)、누군가 (誰か)」、再帰の「자기 (自分)、자기들 (自分たち)」などがある。

有生性を階層的な概念として把握している多くの研究では、いずれも人称代名詞を有生性階層で最も高い位置に置いている。以下で人称代名詞が他の名詞句に比べて本質的に有生的な言語学的範疇であるかという問題について



検討する。

第一に、人称代名詞は、人間普通名詞には見あたらない形態的特徴を持つ。いくつかの言語では、人称代名詞に人間普通名詞にはない数の区別や性の区別、目的格・所有格などの屈折形が存在することがある。また、限定詞(冠詞)を許容しないという特徴も見られる。韓国語の人称代名詞にも人間普通名詞と区別される形態上の特徴がある。「나(私)－우리(私たち)」、「저(わたくし)－저희(私ども)」、「너(君)－너희(君たち)」のように別途の複数形が存在すること、「나(私)－저(わたくし)」、「자기(自分)－당신(「自分」の尊敬語)」のように別途の謙讓形や尊敬形が存在すること、「그(彼)－그녀(彼女)」のように性の区別があることなどがそれである。

第二に、人称代名詞が指示する対象は、複数形を除けば大半が「個々の個人」である。これに比べて人間普通名詞は、特定の個人を指す場合もあるが、該当部類に属する不特定の個人を指示したり、部類全体を指す意味で使用されることもある。

- (4) a. {아이/시어머니/상사} 는 으레 그런 법이다.  
b. \*{나/너/그/그녀} 는 으레 그런 법이다.

(4a) は「{子供/姑/上司}は当然そのようなものだ。」という意味であり、ここでの「아이(子供)、시어머니(姑)、상사(上司)」は特定の個人ではなく、それらに含まれる不特定のある個人、あるいは部類一般を指す意味に解釈される。しかし、人称代名詞は、個別化された人間、つまり特定の個人のみを指示し、上記の二つの意味では使われない。(4b)の例でこの事実が確認できる。

第三に、人間普通名詞とは異なり、人称代名詞はその指示対象を「全体としての個人」で指示するという点が挙げられる。次の例を見てみよう。

- (5) a. 나는 아버지로서의 그를 반대하는 것이 아니라 노동 장관으로서의 그를 반대 한다. (I am not against him as MY FATHER, but as THE LABOR MINISTER.)<sup>9</sup>

b. 나는 예술가로서의 너를 인정하지만, 너와 함께 일을 하기는 싫다.

(5) の「아버지 (父)、노동 장관 (労働大臣)、예술가 (芸術家)」のような人間普通名詞は、厳密に言えば指示対象が社会や家族関係の中で果たしている役割や機能の一つである。つまり、「그 (彼)」あるいは「너 (あなた)」という指示対象が持つ複数の属性の中の一部だけを指しているのである。(5b) 文は「私はあなたが持っている様々な面の中で「芸術家としての面」は認めるが、芸術家以外のあなたが持っているすべての面を含めた「全体としてのあなた」と仕事するのは嫌だ。」という意味に解釈される。「芸術家としてのあなた」や「母としての私」は成立するが、「\*あなたとしての芸術家」あるいは「\*私としての母」のような表現は成り立たない。

このように人称代名詞は人間普通名詞とは異なり、基本的に「個々の個人」を指し、その人のすべての面を含めた「全体としての個人」である対象を指示する。普通名詞には現れない数や性の区別および尊敬形を持つことも、個々の個人を指示するうえで、より詳細に符号化するための一つの装置として見ることができる。つまり、人称代名詞は人間普通名詞に比べ個別性の度合いが高く、これにより人称代名詞は人間普通名詞より有生性階層でより高い位置に置かれるのである。

### 2.1.1.3. 人間普通名詞

コーパスに現れた人間普通名詞には「교사 (教師)、정치가 (政治家)、노동자 (労働者)、소비자 (消費者)、외국인 (外国人)、학생 (学生)、사람 (人)、남자 (男性)、여자 (女性)、아이 (子供)」などがある。人間普通名詞は、文脈によって一人の特定の個人を指す場合もあり、その部類に属する不特定の個人あるいは部類全体を意味する場合もある。

- (6) a. 사람들은 내가 … 손님에게 발각되어 경찰서로 잡혀갔었다는 걸 다 알고 있었다.
- b. 여행사 다니는 친구에게 브라질이야말로 한국남성의 천국이라는 말을 자주 들었던 것이다.

- c. 그 사람에게 텔레비전은 도저히 이해할 수 없는 물건일 거다.
- d. 여기서의 친절이란 손님에게 부담을 주지 말아야 함을 의미한다.
- e. 친구에게 권하고 싶은 책의 내용을 소개하여 봅시다.
- f. 그런데 사람에 의하여 이룩된 문화는 사람에게 다시 영향을 끼친다.

上記の(6a) - (6c)の「손님(お客さん)、친구(友人)、사람(人)」は一人の特定の個人を指している。しかし、(6d) - (6f)の「손님(お客さん)、친구(友人)、사람(人)」は、個々の人物ではなく、「お客さんの中で不特定の一人」、「友人の中で不特定の一人」あるいは「友人一般」、「人一般」として解釈される。該当名詞を代表する非限定的個人、あるいは全体としての類の意味で使用したのである。人間普通名詞が特定の個人を指す際は限定表現を伴う場合が多い。(6b)の「여행사 다니는 친구(旅行会社で働いている友人)」と(6c)の「그 사람(その人)」の「여행사 다니는(旅行会社に通う)」と「그(その)」は、それぞれ「친구(友人)」と「사람(人)」の範囲を限定して特定の個人を指示するようにする。このように人間普通名詞は対象を指示するにあたり、基本的に3つの意味を持つ。大きく指示的用法と非指示的用法の二つに分類することができるが、指示的用法はさらに限定的用法と非限定的用法に分けられる。これを整理すると次のとおりである。

- (7) a. 指示的用法 (referential) : 指示対象が現実の世界に具体的な個体として存在する。
  - ① 限定的用法 (definite) : 特定の個人を指示する場合
    - 예) 옆 자리 친구가 나에게 무슨 뜻인지 물었다.  
(隣席の友だちが私にどういう意味かと尋ねた。)
  - ② 非限定的用法 (indefinite) : 不特定のある個人を指示する場合
    - 예) 친구에게 권하고 싶은 책의 내용을 소개하여 봅시다.  
(友だちに薦めたい本の内容を紹介してみましょう。)
- b. 非指示的用法 (nonreferential) : 指示対象が現実の世界に具体的に存在しない。すなわち、全体としての類を指示する場合
  - 예) 친구란 무엇일까? (友だちとは何だろう?)

人間普通名詞は限定表現の修飾を受けなくても限定的意味、すなわち特定の個人の意味で使われることが可能である。しかし、人間普通名詞の中には基本的に非指示の意味と解釈され、限定的用法として使われるためには必ず限定表現を伴う必要があるものがある。以下の(8)がそれである。

- (8) a. 그에 따르면 동화는 원래 민중에게 의미있는 기별과 정보를 전달하는 매체였다.  
 b. 전쟁은 우리 민족에게 죽고 살기 식의 각박한 인정을 남겼다.  
 c. 한 분의 청중에게 이 질문을 해 보도록 합시다.  
 d. 옆에 앉은 한 명의 이민족에게 들고 있던 죽 그릇을 내밀었다.

(8a)の「민중(民衆)」は「ある社会や国で多数を占めている被支配階級の群れ」という意味であり、基本的に「全体としての類」の意味で使用される。これに属する人間普通名詞は「군중(群衆)、대중(大衆)、민중(民衆)、가족(家族)、민족(民族)、인류(人類)、황인종(黄色人種)、전국민(全国民)」などがある。全体としての類がこれらの名詞の基本意味になっていることは語彙の形態構成とも関連している。群れを意味する「중(衆)」や「족(族)」、全体を意味する「전(全)」などの構成素が該当語彙に含まれているため、部類全体という意味が基本意味になるのである。これらの名詞が特定の個人を指す用法で使われるためには(8c)、(8d)のように「한 분의(お一人の)」、「옆에 앉은 한 명의(隣に座っている一人の)」などの限定表現を必ず伴わなければならない。

上記の名詞類も人間名詞であるため、原則的に助詞「에게」が接続されるが、そうでない場合もある。次の(9)がその例である。

- (9) a. 대중에 영합하는 오늘날의 정치는 더 큰 문제이다.  
 b. 국가와 민족에 충성하고 사회에 충성할 사람들.

(9)の「대중(大衆)、민족(民族)」には「에게」ではなく、「에」が接続されている。全体としての類を基本意味として持つこれらの名詞は、「個別

性」の側面から見ると、人間普通名詞の中で最も有生性が低いと言える。このため、助詞「에게」と「에」の使用においても揺れが現れるのである。

また、「고모 (おばさん)、할아버지 (お祖父さん)、조카 (姪)」などの親族を表す名詞がある。親族名詞は二人の個人間の関係から始まった呼び方であるため、具体的な個人を指示する指示的用法が基本となる。指示的用法は非指示的用法より個別性の度合いが高いため、親族名詞は他の人間普通名詞より有生性も高いと仮定される。先行研究でも親族名詞は他の人間普通名詞より有生性が高いと見なされた。

一方、人間普通名詞の中には「人間」と「組織」という二つの意味を持つ名詞類がある。「경찰 (警察)、미군 (米軍)、의병 (義兵)」などがそれである。(10)の例を見てみよう。

- (10) a. 옆에 앉은 의병에게 주먹밥을 건넸다.  
 b. 그는 … 동학출신으로 드물게 의병에 (\*의병에게) 참여한 사람이다.  
 c. 그러나 장난삼아 들여다본 물레방앗간에는 단짝 창희의 어머니가 미군에게 몸을 팔고 있었고, …  
 d. 미군에게 체포돼 구금 중인 사람 후세인 전 이라크 대통령은 ..

(10a)の「의병 (義兵)」は「切迫した国を救うために自発的に組織された軍隊に所属する兵士」という意味であり、「옆에 앉은 (隣に座っている)」という限定表現の修飾を受けて義兵の中で特定の一人の個人を指している。しかし、(10b)の「의병 (義兵)」は、「兵士」ではなく「義兵軍隊」という組織として解釈される。述語である「참여하다 (参加する)」の意味的特性によっても、この点は明らかである。義兵という組織に参加することはできるが、兵士に参加することはできない。(10b)の「의병 (義兵)」は有生物ではなく無生物名詞句であるため、「의병에 (義兵に)」を「의병에게 (義兵に)」に置き換えると非文になる。しかし、この二つの意味の境界が常に明確なわけではない。(10c)の「미군 (米軍)」は、明らかに「米軍に所属する軍人」の中で一人の特定の兵士を指すものである。しかし、(10d)の「미군 (米軍)」は「アメリカの兵士」と「アメリカの軍隊」のいずれの解釈

も可能である。この例の「미군에게 (米軍に)」は「미군에 (米軍に)」に置き換えることもできる。

#### 2.1.1.4. 複数形

名詞句は単数形のみならず複数形でも現れる。(11) の例を見てみよう。

- (11) a. 우리는 침묵을 강요하는 선배들에게 묻는다.  
 b. 양상무와 동주가 그들에게 다가오고 있다.  
 c. 우리 선생님도 이런 이야기를 우리에게 많이 들려주셨으면 좋겠습니다.  
 d. 콜과 가까웠던 저명인사 20여명에게 소환장이 발부되었다니 …  
 e. 그러자 할 수 없이 후배가 선배에게 다가갔고 둘은 이런저런 얘기를 하며 손을 맞잡았다.  
 f. 순간 막동이의 주먹이 그에게 날아간다.

(11a) – (11d) は複数形に分類することができる。(11a) の「선배들 (先輩たち)」は、人間普通名詞に複数接尾辞の「들 (たち)」がついており、(11b)、(11c) の「그들 (彼ら)、우리 (我々) は」、複数人称代名詞である。(11d) は人間普通名詞の「저명인사 (著名人)」が数量を表す「20여명 (20人)」の修飾を受けて複数形になっている。一方、(11e)、(11f) は、(11a) と (11b) の「선배들 (先輩たち)」と「그들 (彼ら)」が単数形で使用された例である。(11e) の「선배 (先輩)」は、ある集団でこの文の「후배 (後輩)」よりも高い地位にある一人の特定の個人を指す。後ろに続く「둘 (二人)」という表現からも、この先輩が一人の個人であることは明確である。(11f) の「그 (彼)」も「막동이 (マクドンイ)」に殴られた一人の個人を指す代名詞である。これに対し、(11a)、(11b) の「선배들 (先輩たち)、그들 (彼ら)」は、特定の個人ではなく、特定できない多数の人々を指す。複数接尾辞「들 (たち)」がつくことによって、具体的かつ個別化された特定の個人が非個体化され、境界があいまいな不特定の多数になるのである。このように複数性は個性性を弱め、それによって有生性も弱化される。したがって、(12) のように助詞「에게」ではなく「에」が接続されることもある。

- (12) a. 표현의 자유를 외치는 수많은 창작자들에 동조한다.  
 b. 물란은 … 아직도 너무 많은 남자들에 둘러싸여 다른 여성들과 진정한 유대관계를 맺지 못하는 듯 보인다.

### 2.1.2. 人間以外の有生物名詞句

助詞「에게」が接続される有生物名詞句の中には人間ではないものがある。以下の (13) がそれである。

- (13) a. 그는 그 샅살개에게 '아트만 (眞我)' 이라는 이름을 붙여 불렀다.  
 b. 그러나 사냥꾼이 없으면 사냥개는 호랑이에게 금방 잡아먹힌다.  
 c. … 초록 비늘의 괴물에게 사랑하는 여인을 빼앗긴 파고파고라는 젊은이가 …  
 d. 아이기나의 왕 아이아코스는 신에게 기도했어.

(13a)、(13b) の「샅살개 (サブサル犬)」と「호랑이 (虎)」は動物名詞である。(13c)、(13d) の「괴물 (怪物)」と「신 (神)」は人間ではないが、人間のように行動し、人間のような思考と感情を持っている存在として見なされる。本稿では、このようなタイプの名詞を「類似人間名詞」と呼ぶことにする。「귀신 (鬼)、괴물 (怪物)、도깨비 (化け物)、신 (神)、악마 (悪魔)、유령 (幽霊)、외계인 (宇宙人)、제우스 (ゼウス)、포세이돈 (포세이돈)」などがこれに当たる。このうち「제우스 (ゼウス)、포세이돈 (포세이돈)」は、ギリシャ神話に出てくる存在であり、「귀신 (鬼)、괴물 (怪物)」などに比べて外見が人間に似ており、より有生的な存在として感じられる。また、人間固有名と同様に、同じ対象を指す場合でも「대신 (大神)」ではなく「제우스 (ゼウス)」という固有名を使用すると、その指示対象をさらに個別化された存在として認識することになる。

動物名詞および人間と類似した存在である類似人間名詞は、自分の意志によって動いたり変化を引き起こしたりすることができる存在である点で、有生物名詞句に分類される。ただし、有生性階層において人間を指す名詞よりは有生性の度合が低く、いわば周縁的有生物名詞句と言える。このため、助

詞「에게」と「에」の接続にも揺れが見られる。以下の(14)の例がそれである。

- (14) a. 개미나 벌과 같은 곤충에 물렸을 때…  
 b. 오르페우스는 사랑하는 아내 에우리디케가 뱀에 물려 죽자..  
 c. … 도깨비에 홀린 감도 들어 머쓱해지면서 …  
 d. … 나는 미아리 그 집에 살면서 내내 악귀에 붙들린 듯이 떨쳐버릴 수 없었다.

(14a)、(14b)の「곤충(昆虫)」と「뱀(蛇)」は動物名詞であるが、助詞「에」とともに現れている。助詞「에」が接続された動物名詞としては「모기(蚊)、물고기(魚)、뱀(蛇)」など、生物学的に人間と距離が遠いものが大部分である。また、「동물(動物)、맹금류(猛禽類)、곤충(昆虫)」のように特定の動物ではなく、動物全体あるいはそれに属する一つの種類全体を指す例もある。(14c)、(14d)の「도깨비(化け物)」と「악귀(悪魔)」は、類似人間名詞に助詞「에」が接続された例である。このように、類似人間名詞と動物名詞は、人間名詞より有生性の度合いが低いため、助詞「에게」と「에」の接続においても流動的な様相が見られる。

## 2.2. 有生物と無生物の境界的名詞句

本稿では、有生性を、二分的素性の範疇ではなく、原形性と程度性を持つ階層の範疇として把握する。このように有生性を程度性の観点から見ると、有生物と無生物の間にはアイデンティティーが明確ではない境界的(fuzzy-edged)個体が存在することになる。Yamamoto(1999:17-20)では、有生性と無生性の境界線にあるいくつかの例を挙げている。コンピューターや自動車など人間のように動く特殊な近代的な機械の種類、人間の組織(human organisation)、地理学的な個体(geographical entities)と地域共同体(local communities)がそれである。

本稿のコーパス調査の結果でもYamamoto(1999)で提示されたものと類似したものが現れる。これらは無生物と有生物の特徴を持ち合わせている特



殊な名詞群である。本稿では、これらを「有生物と無生物の境界的名詞句」に分類することとする。大きく以下の4つに分けることができる。

第一に「로봇 (ロボット)、인형 (人形)、불상 (仏像)」などの名詞がある。無生物ではあるが、人間や動物と類似した外見を持つという特徴がある。以下の (15) がそれに該当する例である。

- (15) a. 하윤이 로봇에게 공격받았어요.  
 b. 아이가 인형에게 옷을 입히며 놀고 있다.  
 c. … 공기인형을 마치 사람처럼 대하며 인형에게 집착하던 영화  
 d. … 인형에 집착하는 아이.  
 e. 휴머노이드 로봇에 사용하는 서보모터 구입후기입니다.  
 f. 인형에 마약을 집어넣어서 불법으로 밀수하려고 했다.

(15a) の「로봇 (ロボット)」は無生物であるが、助詞「에게」が接続されている。「로봇 (ロボット)」は有生物の外見をとっており、他の動力に依存するとしても運動能力があるという点で、有生物といくつかの属性を共有すると言える。(15b) の「인형 (人形)」も「에게」が接続されている。子供が人形をまるで人間の赤ちゃんのように扱い、服を着せたり、一緒に遊んだりする場面が連想される文である。(15c)、(15d) はいずれも「집착하다 (執着する)」を述語とする文であるが、(15c) は「인형에게 (人形に)」が、(15d) は「인형에 (人形に)」が補語となっている。人形は人間と似たような外見をしているため、人形に対する話し手の距離感によって有生物のように認識され「에게」が接続されることもあり、無生物という本来の属性に基づいて「에」が接続されることもある。このように「로봇 (ロボット)、인형 (人形)」などの名詞は、境界的な属性を帯びているため、助詞「에게」と「에」の接続においても、揺れが見うけられる。しかし、(15e)、(15f) の「로봇 (ロボット)」と「인형 (人形)」には助詞「에」だけが接続される。「사용하다 (使用する)」や「집어넣다 (詰め込む)」という述語変数によって「에게」との接続が制約されるためである。

第二に、Yamamoto (1999) で提示された「컴퓨터 (コンピューター)」と

「자동차 (自動車)」類がある。Yamamoto (1999) によると、コンピューターや自動車はいくつかの点においては人間と非常によく似た特徴を見せると言う。Yamamoto (1999:18) では、コンピューターが他の機械類に比べてより有生的な個体として扱われる理由について、人間を凌駕する賢さを挙げている。また、コンピューターは情報処理の過程で、時には考えているかのように見られ、このことはコンピューターが感覚を持っているという幻想を呼び起こすと言う。自動車も典型的に有生物のように見える機械である。本稿では、有生物の最大の特徴を自らの意志で動ける運動能力と見ているが、自動車類の乗り物は、人間が操作をするものであるが、運動能力を持っている。そして自動車とそれを操作するドライバは同一視される傾向がある。韓国語の場合でも、コンピューターと自動車は、他の機械類と比較してより有生的な存在として認識される。次の例を見てみよう。

- (16) a. 슈퍼컴퓨터에게 화내지 마세요.  
 b. 자동차에게 빼앗긴 보행권을 시민에게 되찾아 주겠다는 것이다.  
 c. 나는 내 컴퓨터에 화를 낸다.  
 d. 그러나 우리들은 거리의 주인 자리를 자동차에 뺏긴 지 오래되었다.  
 e. 친구들 주소와 생일 등을 적은 리스트는 컴퓨터에 저장돼 있다.  
 f. … 모두 다섯 명이 자동차에 타고 있었다.

(16a)、(16b) の例を通して、話し手がコンピューターや自動車を人間のように意思疎通が可能でかつ、人間と似たような行為が可能な存在として扱っていることがわかる。そして(16a)、(16b) の「컴퓨터 (コンピューター)」と「자동차 (自動車)」に「에게」が接続される。しかし、(16c)、(16d) でわかるように、同じ述語である「화를 내다 (腹を立てる・怒る)、뺏기다 (奪われる)」をとる文でも「에게」ではなく「에」が接続される場合もある。つまり、「컴퓨터 (コンピューター)、자동차 (自動車)」も、上記の「로봇 (ロボット)、인형 (人形)、불상 (仏像)」などと同様に境界的な属性を持っているため、有生性の判断が常に一貫しているわけではない。ただし、(16e)、(16f) の「컴퓨터 (コンピューター)、자동차 (自動車)」は「에」との接続

のみが可能である。この際の「컴퓨터 (コンピューター)」と「자동차 (自動車)」は「저장되다 (保存される)」や「타다 (乗る)」のような述語との結合関係から「物理的な場所」という意味だけにその解釈が制限されるためである。

第三に、植物名詞がある。韓国語では植物名詞も有生物と無生物の境界的名詞句と見なされる。次の例を見てみよう。

- (17) a. 그녀는 마음속의 힘을 모아 그 은행나무에게 말했습니다,  
 b. 정원에 가득한 나무와 풀들에게 물을 뿌리는 것이 아버지가 하는 일의 전부였다.  
 c. 내가 그 꽃에게 물을 주었고, 얘기를 들어줬고, 벌레를 잡아줬기 때문이야.  
 d. 상희, 꽃에 물 주고 있다.  
 e. 선생님이 나무에 기어오르라고 시켰으나 …

(17a) では、「은행나무 (イチョウの木)」を人間と同様に会話ができる存在として表現している。いわゆる擬人化の用法であり、この場合助詞「에게」を「에」に置き換えることはできない。(17b) は、擬人化の用法ではないため「에게」を「에」に置き換えられる。(17c)、(17d) は、「물을 주다 (水をやる)」という同じ述語がそれぞれ「꽃에게 (花に)」と「꽃에 (花に)」を補語にとった例であるが、そのニュアンスは少し異なる。(17c) は、童話「어린왕자 (星の王子さま)」に出てきた文である。ここでの「꽃 (花)」は、話し手の認識体系の中で、外の世界に他者として存在する個体ではなく、感情移入が可能で、愛情を持って親密に接する有生物的な「相手」として解釈される。一方、(17d) の「꽃에 (花に)」は、単なる「到達点」の意味であり、場所名詞に近い。(17e) のように助詞「에」のみをとる例もある。(17e) の「나무 (木)」は這い登る練習をする単純な場所の意味であるため、「에게」は接続できない。植物名詞は自己繁殖が可能に生きている存在である点では有生物と共通しているが、動く能力がなく、他の無生物個体と同じくある一定の空間に制約される点では、無生物と同様の性質を持つ。とくに「一定の

空間」という場所性に焦点を当てると単純な場所の意味になる。このため植物名詞は境界的名詞句に分類される。しかし、韓国語の植物名詞は無生物名詞句により近似したものと考えられる<sup>10</sup>。コーパスに現れた用例のうち植物名詞に「에게」が接続された例は6例、「에」が接続された例は21例であった。「植物名詞+에게」の場合、6例のうち5例が(17a)のような擬人化用法である。擬人化でない例は(17b)の一つのみである。また、21例の「植物名詞+에」用例の中で16例が場所の意味のみを持つ例である。

第四に、人間を成員とした「組織」や「地域」がある。これらも有生物名詞句のように助詞「에게」が接続される例が現れる。以下の(18)がそれである。

- (18) a. 전직 테니스 강사인 바비는 노름빔을 잡지 못해 갱단에게 손가락 두 개를 잘렸다.  
 b. 기력이 소진한 시민단체에게 더욱 험난한 운동을 주문할 수 없었다.  
 c. 주인공 안젤라 (샌드라 불럭) 가 … 중요한 과일들을 FBI에게 이메일로 전송하는 것이 그 문제의 장면이다.  
 d. … 1876년 일본은 같은 방법으로 조선에게 개항을 강요한다.  
 e. 그후 이스라엘왕국은 아시리아에게 정복되고, …

(18a) - (18c) の「갱단 (ギャングの組織)、시민단체 (市民団体)、FBI」はいずれも、多数の人々で構成された組織体という共通点がある。これらの名詞は、構成員である個々人の意志や知覚が反映された集合体としての性格を帯びる。(18a) の「갱단 (ギャングの組織)」は、現実の世界に存在する具体的な形状を持つ個体ではない。바비 (バービー) の指を切る行為を実際に行うのは、ギャングの組織に所属している組織員である。そしてバービーの指を切るように決めたのはギャングのボスである。しかしここでは、ギャングの組織という無形の組織が人間と同様に意志を持って、その意志を具体的な行動として実行したかのように描写されている。「갱단 (ギャングの組織)」という無生物をまるで生きている人間のように扱っているのである。(18b) の「시민단체 (市民団体)」は、市民運動を目的に人々が集まって作っ

た組織である。これもまた生物ではないが、ここではまるで生命体であるかのように「기력이 소진한 (気力が尽きた)」という修飾表現が用いられている。実際に気力が尽きたのは、市民団体という組織そのものではなく、そこに属する構成員である。これらの構成員の感覚を「市民団体」という組織に投影して表現しているのである。

(18d)、(18e)の「조선 (朝鮮)、아시리아 (アッシリア)」は、国の名前である。ある地域を表す地域名は文脈によって二つの意味を持つ。「오늘 일본에 도착했다. (今日、日本に到着した。)」の「일본 (日本)」は、アジアの東端の太平洋上に位置している4つの島からなっている地理的な個体を指す。しかし、(18d)での「일본 (日本)」と「조선 (朝鮮)」は、単なる場所としての地理的な個体ではない。それぞれ朝鮮に国の扉を開くように強制する行為主体である日本政府、そして日本政府から開港を強要される相手である朝鮮皇室と解釈することが文脈上自然である。つまり、ここでの「일본 (日本)」は日本という地域に居住する人々を国民にしてできた国家組織、特に日本という国家組織を代表する権力集団を意味し、「조선 (朝鮮)」もまた、朝鮮という国を代表する皇室あるいは権力集団を指している。このように、地域名は「地理的個体としての場所」と「人々で構成された組織」という2つの意味を持つ。後者の場合は、多数の人々で構成された組織という点で、前述の「갱단 (ギャングの組織)、시민단체 (市民団体)、FBI」と同様の性格を持つ。

本稿では、組織名や地域名のように「複数の人間を構成員とする集団」を表す名詞類を「集団名詞」と分類することとする。本稿で確認した集団名詞には、「FBI、WHO、자민당 (自民党)、정부 (政府)、조사단 (調査団)」などの機構や組織、「LG전자 (LG電子)、소니 (ソニー)、남자팀 (男子チーム)」のようなスポーツチーム、「벤처기업 (ベンチャー企業)、회사 (会社)」などの企業組織、「민주세력 (民主勢力)、집권세력 (執権勢力)」など、ある共通の理念の下に集まった集団、「신세대 (新世代)、X세대 (X世代)」など、同時代に暮らし考えがよく似ている同年齢層の集団などがある。「일본 (日本)、한국 (韓国)、서울시 (ソウル市)、교토 (京都)」などの地域名も場所の意味ではなく、組織の意味を持つ場合は、集団名詞に含まれる。集団名詞

は有生物名詞句と無生物名詞句の境界地帯に置かれた名詞類であり、有生物と無生物の属性を持ち合わせている。このため、助詞「에게」と「에」の接続にも揺れが見うけられる。以下の(19)を見てみよう。

- (19) a. 누가 그런 권력을 시민단체에게 주었던 말ियो?  
 b. 첫 번째 책의 판권은 모 시민단체에 졌었다.  
 c. 그가 자신의 논을 일본에게 팔았다는 소문이 …  
 d. 북한 정보를 일본에 팔았습니다.  
 e. 이들의 대부분은 시민단체에 소속되어 있다.  
 f. 설날 연휴 때 일본에 여행 갔어요.

(19a)、(19b)の「시민단체(市民団体)」は、「주다(与える)」という同じ述語の補語であるにもかかわらず、(19a)では「에게」が、(19b)では「에」が接続されている。(19c)、(19d)の「일본(日本)」も同様である。(19a)―(19d)の「시민단체(市民団体)」と「일본(日本)」は、助詞「에게」と「에」の両方を取ることができ、話し手の判断や文体的条件によって2つのいずれかが選択される。しかし、(19e)、(19f)の「시민단체에(市民団体に)」と「일본에(日本に)」の場合は、助詞「에」を「에게」に置き換えると非文になる。(19e)の「시민단체(市民団体)」は、「소속되다(所属なる)」という述語によって構成員の代表という有生物名詞的使い方が制約され、(19f)の「일본(日本)」は、述語「가다(行く)」によって話し手が旅行に行くところ、すなわち単純な場所としての到達点の意味だけを持つようになる。

前述した人間普通名詞のうち、全体としての類が基本意味である「대중(大衆)、민족(民族)、인류(人類)」などと「정부(政府)、기업(企業)、대책위(対策委)、사회당(社会党)、갱단(ギャングの組織)、일본(日本)」のような集団名詞はいずれも「複数の人間を構成員とする集団」という点では意味的な類似性を持つ。しかし、集団名詞は、助詞「에서(esco)」が接続され、文で主語として用いることができるが、「대중(大衆)、민족(民族)、인류(人類)」などの人間普通名詞はこのような使い方を持たないという文法的な違いがある。

- (20) a. {정부/기업/대책위/사회당/깡단/일본} 에서 그 일을 했다.  
 b. \*{대중/민족/인류} 에서 그 일을 했다.

### 2.3. 無生物名詞句

無生物名詞句には大部分「에」が接続されるが、ごく一部、「에게」が接続された例が存在する。このような例は、分析の対象となった3,591例の「에게」の用例のうち17例であった。以下の(21)がそれである。

- (21) a. 흰색은 와이셔츠에게 거부당함으로써 와이셔츠의 색깔이 된다.  
 b. 그래도 의기양양한 머리는 꼬리에게 늘 이렇게 으스댄답니다.  
 c. 칠성당을 짓고 북두칠성에게 제사를 지내는 풍습이 생겨났다고 한다.  
 d. 반장, 계단을 홀끔거리며 201호에게 계속 눈치 준다.

(21a) では、洋服の一種である「와이셔츠(ワイシャツ)」が何かを嫌がる感情を持って拒否をすることができる人間的存在として描かれている。(21b)も、動物の身体の一部である「꼬리(尾)」を人間のように威張り散らす存在として表現している。これらの例は、両方とも擬人化に該当する。17例のうち8例が擬人化の用法である。(21c)の「북두칠성(北斗七星)」は、夜空に出ている星そのものを指すのではなく、神性を持つある絶対的な存在を北斗七星にたとえて表現したのである。(21d)は、アパートに住んでいる人をその部屋番号を用いて示した例である。(21c)、(21d)の「북두칠성(北斗七星)、201호(201号)」は、言葉本来の意味では無生物名詞句であるが、「神様」や「201号に住んでいる人」の換喩(metonymy)的表現であり、真意は有生の属性を含意している。一方、以下の(22)は擬人化や換喩ではない例である。

- (22) a. 그림 II-23과 같이 마그네슘은 수소 이온에게 주고 …  
 b. 북한강 전역이 거의 유원지화돼 있는 것은 … 길게 보아 북한강에게 결코 좋은 일이 못되는 터다.  
 c. … 책, 그림, 오디오 혹은 와인 등 식물을 제외한 모든 물품들에게

직사광선은 좋지 않기 때문이다.

(22a) の「수소 이온 (水素イオン)」や「마그네슘 (マグネシウム)」は、明らかに無生物名詞句である。しかし、これらは人間の目には見えないが、電子をお互いに交換するなど有生物のような運動性を持っている。意図性を持つ人間や動物の運動性とは異なり、単純な化学反応であるが、他の有生物の操作ではなく内部的な動因によって電子の交換という運動作用が起こるという点で、有生物の運動性と類似していると言える。イオンのこのような特徴により、「수소 이온 (水素イオン)」に「에게」が接続されたと思われる。(22b)、(22c) の「북한강 (北漢江)」と「모든 물품들 (すべての商品)」の場合は、「에게」が接続されている理由を明確に説明することは難しい。「좋다 (良い)」という述語と関連している可能性もあるが、「{\*책에게/\*그림에게} 직사광선은 좋지 않다. ({\*本に/\*絵に} 直射日光はよくない。)」でわかるように、本や絵などの無生物名詞句と助詞「에게」は接続が容易ではないので一貫性のある説明はできない。

### 3. 「에게・에」 と接続する先行名詞句についての量的調査

#### 3.1. 「에게・에」 の先行名詞句の分布

ここでは、助詞「에게」と「에」に先行する各名詞句の分布を調査・比較し、その分布の違いがどのような意味を持つのかを検証したい。まず本稿では、100万語節規模の「新延世コーパス」<sup>11</sup>から抽出した3,591例の「에게」の用例と28,998例の「에」の用例<sup>12</sup>を対象に、先行名詞句の頻度調査を実施した。この32,589例の中で有生物名詞句が先行要素として現れたのは4,566例、無生物名詞句が先行要素として現れたのは28,023例であることがわかった。有生物名詞句の4,566例の内訳は、「에게」の用例が3,494例、「에」の用例が1,072例である。ただし、「에」の用例の中には、先行名詞句が有生物名詞句であれ無生物名詞句であれ助詞「에」が接続される例が含まれている。以下の(23)がそれである。

(23) a. 나는 아직 그분에 (/ \*그분에게) 대해서 아무것도 알 수가 없다.



- b. 이 글은 화가 장옥진에 (/ \*장옥진에게) 관한 기록이다.
- c. … 권세와 재산이 있고 팔방미인이라도 술 마시는 사람은 미련한 자에 (/ \*미련한 자에게) 속한다.
- d. 하녀에 (/ \*하녀에게) 불과했던 신데렐라가 왕자를 만나 ‘그후로도 오래 (ever after) 행복하게 살았다’ 로 끝나는 것이다.
- e. … 어스킨 보울스가 97년 1월 백악관 비서실장에 (/ \*비서실장에게) 임명됐다.
- f. 특히 의지와 표상으로서의 세계, 쇼펜하우어에 (/ \*쇼펜하우어에게) 미치도록 빠졌다!
- g. 충주댐이 완성된 뒤로 낚시꾼에 (/ \*낚시꾼에게), 등산객에 (/ \*등산객에게), 온천객들이 몰려들어 복새를 이루는 것도 사실이다.
- h. 그 아비에 (/ \*아비에게) 그 아들이다.

(23a)의 「그분에 대해서 (その方について)」と(23b)의 「장옥진에 관한 (長ウクジンに関する)」は、一種の固定的な表現と見られる。「관하다 (關する)、대하다 (對する)、따르다 (よる)、비하다 (比べる)、의하다 (よる)」が「관해서/관해/관하여/관한 (關して/關し/關して/關する)」、「대해서/대해/대하여/대한 (對して/對し/對して/對する)」、「따라서/따라/따르면/따른다면 (よって/より/よると/よると)」、「비해서/비해/비하여/비하면/비한다면 (比べて/比べ/比べて/比べると/比べると)」、「의해서/의해/의하여/의하면 (よって/より/よって/よると)」のように、限られた活用形のみを持ち、先行要素が有生物名詞句であれ無生物名詞句であれ「에」だけが接続する場合である。(23c)の「미련한 자 (愚かな者)」は、述語「속하다 (屬する)」との結合関係において主語の「술 마시는 사람 (お酒を飲む人)」が含まれる任意のグループを意味する。このように「들다 (入る)、속하다 (屬する)、포함되다 (含まれる)」など包含関係を表す述語の場合は、有生物名詞句と結合する際にも助詞「에」が来ることになる。(23d)も同様である。水準や度合が任意の線を越えられずに微弱な段階にとどまっているという「限定」の意味を持つ「불과하다 (過ぎない)、그치다 (とどまる)、지나지 않다 (過ぎない)」などの述語は、先行名詞句が有生物名詞句であれ無生物名詞

句であれ「에」だけが接続される。(23e)の「비서실장 (秘書室長)」は多義語であり、秘書室長を務めている人の意味で使われることもあり、秘書室長という役職自体を意味することもある。この文の「비서실장 (秘書室長)」は後者に該当する。このように「비서실장 (秘書室長)、대통령 (大統領)、의장 (議長)、챔피언 (チャンピオン)」などの名詞は「その役職や資格を持っている人」と「職位や資格」という2つの意味を持つ名詞である。前者の意味で用いられる際は、有生物名詞句として「에게」が来るが、後者の無生物名詞句の意味で用いられる場合には、「에」が接続される。(23f)の「쇼펜하우어에 빠졌다 (ショーペンハウアーにはまった)」は、ショーペンハウアーという人に惚れたという意味ではなく、「ショーペンハウアーの思想に魅了されて没頭するようになった」という意味である。ここでのショーペンハウアーは、換喩の意味である。この例でも「에」を「에게」に置き換えるとどこちない文になる。(23g)の「낚시꾼에, 등산객에 (釣り師や登山客

<表1> 「에게・에」と接続する先行名詞句の分布

		全体 頻度	에게 接続 頻度	에게 接続 比率	에 接続 頻度	에 接続 比率	
有生物 名詞句	人間固有名	581	563	96.9%	18	3.1%	
	人稱 代名詞	1人稱代名詞	511	511	100.0%	0	0.0%
		2人稱代名詞	35	35	100.0%	0	0.0%
		3人稱代名詞	243	241	99.2%	2	0.8%
		その他	90	89	98.9%	1	1.1%
	小計	879	876	99.7%	3	0.3%	
	人間 普通 名詞	親族	164	164	100.0%	0	0.0%
		一般	1,829	1,742	95.2%	87	4.8%
		集團	83	67	88.7%	16	19.3%
	小計	2,076	1,973	95.0%	103	5.0%	
	小計	3,536	3,412	96.5%	124	3.5%	
	人間 以外の 有生物 名詞句	類似人間名詞	29	25	86.2%	4	13.8%
	動物名詞	74	57	77.0%	17	23.0%	
	小計	103	82	79.6%	21	20.4%	
小計	3,639	3,494	96.0%	145	4.0%		
無生物名詞句 (有生物と無生物の境界的名詞句を含む)		28,023	97	0.3%	27,926	99.7%	
合計		31,662	3,591	11.3%	28,071	88.7%	

や)の「에」はある対象を並列的に羅列する用法である。このように助詞「에」が「列挙」の意味で用いられる場合は、無生物名詞句のみならず有生物名詞句の後ろでも常に「에」が接続される。(23h)は、ことわざのような特殊な慣用表現で有生物名詞句の後ろに「에」が接続された例である。(23)の例は、先行名詞句の有生性とは関係なく、述語の意味特性、先行名詞句の意味特性、「에」自体の意味特性などの意味的・統語的条件によって、常に助詞「에」が接続される場合であるため<sup>13</sup>、量的分布の比較対象にはならない。1,072例の「有生物名詞句+에」の中でこれらの用例は927例に及ぶ<sup>14</sup>。<表1>は全体の32,589例からこの927例を除いた31,662例を対象に、先行名詞句の頻度を調査した結果である<sup>15</sup>。

有生物名詞句の用例のうち、「에게」が接続されているのは全体の96.0%、「에」が接続されているのは4.0%である。無生物名詞句(有生物と無生物の境界的名詞句を含むを含む<sup>16</sup>)は完全に反対の結果を示す。「에게」が接続されているのは0.3%、「에」が接続されているのは99.7%である。有生物名詞句の中で人間有生物名詞句の場合は、「에게」の用例は96.5%、「에」の用例は3.5%の分布を示す。また、人間以外の有生物名詞句の場合は、「에게」の用例は79.6%、「에」の用例は20.4%の分布を示す。予想どおり助詞「에게」は大部分有生物名詞句に接続され、その中でも最も有生的な範疇と言える人間名詞との接続が際立つ。無生物名詞句には大部分助詞「에」が接続される。

### 3.2. 「에게・에」の先行名詞句の分布についての統計的検定<sup>17</sup>

<表1>で提示した「에게・에」の先行名詞句の分布で、各名詞句の分布の違いは何を意味するかをより正確に検証するために、統計的検定を行った。まず、各名詞句と助詞「에게・에」との接続頻度に対するT-scoreとMI-scoreを算出した。

MI-scoreは抽出された語と語の共起関係の強さ(strength of association)を図るものであり、T-scoreはその2語間の共起関係の確信度(confidence of association)を図るものである。例えば、語Xと語Yの共起がX10でY50、そのうちの共起XYが5だった場合のMI-scoreが10.0で、T-scoreが2.0だったとする。もし語Xと語Yの共起がX100でY500、そのうち共起XYが50だった場合、

MI-scoreが示す共起関係の強さは10.0で変わらないが、結合の確信度を表す T-scoreは総数で示される証拠が多い分、上昇し2.0よりも大きい数値が得られる。

つまり、MI-scoreはコロケーションの共起関係の強弱を表す指標であり、これにより、各名詞句と助詞「에게・에」との接続の強さを知ることができる。そして、T-scoreを見ることで「에게・에」との接続の共起関係が確実なものであるかどうかがわかる。有意水準0.5%で、MI-scoreは3.0以上、T-scoreは1.65以上を有意と見なす。その結果は以下の <表2> ~ <表4> のとおりである。

<表2> 有生物名詞句と無生物名詞句のT-scoreとMI-score

名詞句の類型	名詞句の度数	コロケーションの度数	MI-score	T-score	
有生物名詞句	3,639	에게	3,494	4.92*	57.16*
		에	145	0.33	2.47*
無生物名詞句 (境界的名詞句を含む)	28,023	에게	97	-3.19	-80.24
		에	27,926	4.98*	161.8*

注) p.<0.5\*

まず、有生物名詞句について見る。名詞句の度数3,639のうち、有生物名詞句に「에게」が共起した度数は3,494であり、共起の強さ (MI-score) は4.92で有意であった。また共起の確信度 (T-score) も57.16で有意であり、非常に高い確信度を示している。その一方で、有生物名詞句に「에」が共起した度数は145であり、共起の強さ (MI-score) は0.33で有意ではない。また共起の確信度 (T-score) は2.47で有意ではありつつも非常に低い値を示している。このことから、有生物名詞句はほぼ「에게」と共起し、「에」とはほとんど共起しないということがわかる。

次に、無生物名詞句 (境界的名詞句を含む) について見る。名詞句の度数28,023のうち、無生物名詞句に「에게」が共起した度数は97である。共起の強さ (MI-score) は-3.19で、共起の確信度 (T-score) も-80.24で共に有意ではなかった。それに対して、「에」の場合、無生物名詞句と共起した度数は27,926であり、共起の強さ (MI-score) は4.97で有意である。共起の確信度 (T-score) も161.8で有意であり、極めて高い確信度を示している。このことから、無生物名詞句は専ら「에」とのみ共起し、「에게」との共起は極

&lt;表3&gt; 人間有生物名詞句と人間以外の有生物名詞句のT-scoreとMI-score

名詞句の種類	名詞句の度数	コロケーションの度数	MI-score	T-score	
人間有生物名詞句	3,536	에게	3,412	8.05*	58.19*
		에	124	3.27*	9.98*
人間以外の有生物名詞句	103	에게	82	7.77*	9.01*
		에	21	5.81*	4.5*

注) p.<0.5\*

めて稀であるということが言える。

次に、人間有生物名詞句および人間以外の有生物名詞句と「에게・에」の共起関係を見ていく。名詞句の度数3,536のうち、人間有生物名詞句に「에게」が共起した度数は3,412であり、共起の強さ（MI-score）は8.05で有意である。また共起の確信度（T-score）も58.19で有意であり、非常に高い確信度を示した。そして、人間有生物名詞句に「에」が共起した度数は124であり、共起の強さ（MI-score）は3.27で有意である。また共起の確信度（T-score）も9.98で有意であった。

人間以外の有生物名詞句はそもそも検索された度数自体が103と少ない。名詞句の度数103のうち、人間以外の有生物名詞句に「에게」が共起した度数は82であり、共起の強さ（MI-score）は7.77で有意であった。また共起の確信度（T-score）も9.01で有意であった。人間以外の有生物名詞句に「에」が共起した度数は21であり、共起の強さ（MI-score）は5.81で、共起の確信度（T-score）は4.5で有意であった。「에게」の場合も「에」の場合も、元の度数が少ないため、T-scoreはそれほど高い値が検出されていない。

<表3>の結果から、人間有生物名詞句には「에게」が接続し、「에」が付くことは稀であることがわかる。また、人間以外の有生物名詞句の場合は「에게」か「에」か明確な傾向は見られないものの、やや「에게」との結合が優勢な様子が観察された。

最後に人間有生物名詞句の下位範疇である人間固有名、人称代名詞、人間普通名詞について見る。人間固有名の場合は、「에게」との結合はMI-score8.1、T-score23.64で強い共起関係と確信度を示している。「에」ともMI-score3.13、T-score3.76で共に有意であるが、「에게」と比較すると大きな差が見られる。

1人称・2人称代名詞と「에」の場合は、接続頻度が0であったため統計処

&lt;表4&gt; 人間有生物名詞句の各範疇のT-scoreとMI-score

名詞句の類型	名詞句の度数	コロケーションの度数		MI-score	T-score
人間固有名	581	에게	563	8.1*	23.64*
		에	18	3.13*	3.76*
1人称	511	에게	511	8.14*	22.53*
		에	0	—	—
2人称	35	에게	35	8.14*	5.9*
		에	0	—	—
3人称	243	에게	241	8.13*	15.47*
		에	2	1.22	0.81
その他	90	에게	89	8.13*	9.4*
		에	1	1.65	0.68
小計（人称代名詞）	879	에게	876	8.14*	29.49*
		에	3	-0.05	-0.06
人間 普通 名詞	164	에게	164	8.14*	12.76*
		에	0	—	—
一般	1,829	에게	1,742	8.07*	41.58*
		에	87	3.75*	8.63*
集団	83	에게	67	7.83*	8.15*
		에	16	5.77*	3.93*
小計（人間普通名詞）	2,076	에게	1,973	8.07*	44.25*
		에	103	3.81*	9.43*

注) p.<0.5\*

理が不可能であった。3人称およびその他の代名詞を含め、人称代名詞全体と「에」の場合は、MI-scoreもT-scoreも有意ではなかった。つまり、人称代名詞の助詞「에」との接続頻度は、コーパスから全く観察されなかったと言つてよい。人称代名詞には専ら「에게」が接続することがわかる。

人間普通名詞の中で「親族」の場合は、「에게」との結合はMI-score8.14、T-score12.76で有意であるが、「에」とは度数が0であるため統計処理ができなかった。「一般」の場合、「에게」との結合はMI-score8.07、T-score41.58で有意であり、高い確信度を示している。一方、「에」とはMI-score3.75、T-score8.63で有意ではあるが、「에게」の確信度と比べると弱い。「集団」の場合は、「에게」との結合はMI-score7.83、T-score8.15であり、「에」とはMI-score5.77、T-score3.93である。T-scoreは共に有意であるが、元の度数が83（「에게」の度数67、「에」の度数16）で少ないためそれほど高い値を示していない。MI-scoreもいずれも有意であるが、「一般」に比べ「에게」と「에」

の値の差が小さい。人間普通名詞も他の人間名詞と同様に「에게」との接続が優勢に見られるが、「集団」のように全体を見立てた場合は「에게」の代わりに「에」が使用された例も現れる。「集団」→「一般」→「親族」の順に個別性の度合いが高くなるため、「에게」との結合が優勢になっていくと考えられる。

#### 4. 韓国語名詞句の有生性階層

ここでは、前述した助詞「에게・에」の接続関係に対する量的・質的分析結果を基に韓国語の有生性階層を立て、この階層にどのような特性が関与しているか整理してみたい。その結果は以下のとおりである。

<表5> 「에게・에」の接続関係から見た韓国語名詞句の有生性階層と関連特性

有生性階層	関連特性
1) 有生物名詞句 > 有生物と無生物の境界的名詞句 (集団名詞 (人間を構成員とする組織や地域名)、植物名詞、特別なもの名詞 (ロボット、人形、自動車、コンピューターなど)) > 無生物名詞句	(厳密な意味での) 有生性、動作者性、人間性
2) 人間有生物名詞句 (人間固有名、人称代名詞、人間普通名詞) > 人間以外の有生物名詞句 (類似人間名詞、動物名詞)	人間性
3) 人称代名詞 > 人間普通名詞	
4) 人間固有名 > 人間普通名詞	個別性
5) 人間普通名詞 (親族) > 人間普通名詞 (一般) > 人間普通名詞 (集団)	個別性・指示性
6) 1人称・2人称代名詞 > 3人称代名詞	発話参与度
7) 限定的用法の人間普通名詞 > 非限定的用法の人間普通名詞	個別性・定性
8) 単数名詞句 > 複数名詞句	個別性・単数性

1) 有生物名詞句は無生物名詞句より有生性階層でより高い位置にある。これは言うまでもなく、有生性階層において最も基本的な仮定であるが、統計的検定によって客観的に証明された。また、用例についての実証的分析を通じて有生物と無生物の境界にまたがっている一連の名詞句が存在することがわかった。本稿ではこれらを「有生物と無生物の境界的名詞句」と分類し、助詞「에게」や「에」が接続される具体的な条件を綿密に記述した。言語学における有生性については、生物学的特徴のみならず、「人間や動物のよう

に自分の意志で動くことができるか」、「意図を持ってある行為を行うことができるか」、「外見や行動が人間とどのくらい類似しているか」などの、動作主性や人間性も重要な基準となる。

2) 有生物名詞句のうち人間有生物名詞句は人間以外の有生物名詞句より有生性階層でより高い位置にある。これは量的・質的検討に基づいて検証された。「人間性」は有生性階層と非常に緊密な相関関係を持つ特性である。助詞「에게·에」との接続において、人間有生物名詞句と人間以外の有生物名詞句の分布の違いは偶然の現象ではなく、これらの2つの名詞句の階層上の違いから生じたものである。

3) 人称代名詞は人間普通名詞より有生性階層においてより高い位置にある。「個別性」は有生性に寄与する。一人の特定の個人を全体として指示する人称代名詞は、社会や家族関係で持つ一部の関係のみを表す人間普通名詞より個別性の度合が高く、したがって有生性の度合も高くなる。このことは用例についての意味的・形態的分析によっては支持されたが、これについての統計的検定は不可能であった。人称代名詞と助詞「에」との接続頻度がコーパスから全く観察されなかったと言ってよいほど低かったためである。これは人称代名詞には専ら「에게」が接続されることを表している。

4) 「個別性」は人間固有名と人間普通名詞の階層にも関与する。一人の具体的な個人を指示する人間固有名は、人間普通名詞に比べ個別性の度合が高く、有生性階層においてより高い位置にあることになる。このことは質的分析によっては支持されたが、MI-scoreに関しては、人間固有名は人間普通名詞とさほど大きな差は示されていなかった。これは新聞や雑誌で特殊な文体の一種として人間固有名に助詞「에」が接続された例がいくつか現れたためである。これらの要因が統計的検定に影響を及ぼしたと思われる。

5) 「個別性」は「指示性」と相互作用して人間普通名詞の有生性の判断に影響を与える。指示性が高くなるほど個別性も高くなる。本稿では、人間普通名詞を「親族」、「一般」、「集団」の3つに分類したが、「集団」→「一般」→「親族」となるにつれて、指示性が高くなるために、個別性の度合いも高くなる。したがって、有生性階層においては、「親族」>「一般」>「集団」の順となると仮定される。これは、統計的検定と意味的分析によって判明し



た。

6) 有生性を階層的な範疇として把握した研究ではいずれも1人称代名詞(話し手)と2人称代名詞(聞き手あるいは受信者)を有生性階層で最も高い位置に置いている。話し手と聞き手は、ある発話場面において、最も直接的な参加者であり、実際の発話で1人称と2人称代名詞という形で実現される可能性が高いためである。この仮定は意味的・形態的分析の結果からは有効であると考えられるが、統計的に証明することはできなかった。人称代名詞と「에」との接続頻度が非常に低い数値であったため、統計処理自体が不可能であった。韓国語でもう一つ特徴的なのは1人称代名詞に比べ2人称代名詞の頻度が著しく低いことである。「에게」と接続された人称代名詞のうち、1人称は58.3% (511例)、2人称は4.0% (35例) の分布を見せる。これは、韓国語の指示方式の特徴と関連があると見られる。聞き手を指す際、2人称代名詞より固有名や役職などの普通名詞が好まれる韓国語の特性により、2人称代名詞の頻度が低かったと思われる<sup>18</sup>。

7) 「個別性」は、「定性」によって促進されることもある。限定表現の修飾を受ける限定的用法の名詞句は、不特定の誰かを指示する非限定的用法の名詞句より個別性が高いため、有生性も高くなる。つまり、「친구 (友だち)」よりは「내 옆자리에 앉은 친구 (私の隣席に座っている友だち)」の方がより有生的な表現であると言える。本稿では、限定的用法と非限定的用法については、分布調査を行っておらず、この二つの分布の違いが統計的に有意かどうかは確認できなかった。

8) 「個別性」は「単数性」とも連携して、名詞句の有生性の判断に影響を及ぼす。複数の標識により個別性が弱まった複数名詞句は、有生性階層において単数名詞句より低い位置にあることになる。単数形と複数形については、別途の分布調査をしていないため、統計的検定は行われなかった。

上記の研究結果から韓国語名詞句の有生性階層について以下のような結論が得られる。

第一に、韓国語における有生性階層は「(厳密な意味での) 有生性、人間性、動作者性、個別性、指示性、定性、単数性、発話参加度」など、様々な特性と関連があることがわかった。また、これらの特性は個別に適用される

こともあり、2つ以上の特性が同時に関与する場合もある。つまり、「有生性階層」は一つの尺度による単線的なものではなく、複数の特性が相互に作用しつつ、複合的に絡み合っている構造である。

第二に、韓国語における有生性階層は、他の言語を対象にした研究で提示された有生性階層と非常に類似した形で成り立っている。最も典型的な有生物である人間を中心に、人間から離れるほど有生性の度合いが低くなり、最も遠い位置には典型的な無生物が分布する。また、各個体に対する有生性の判断には絶対的な基準があるわけではなく、個体と個体の間の区別にも明確な境界線があるわけではない。したがって、有生性階層は当然「原形性」と「程度性」を持つファジーの階層として現れる。これにより、有生性という意味属性の普遍性を確認することができた。

第三に、韓国語固有の特徴も存在する。他の言語を対象とした研究では、人称代名詞が人間固有名より有生性階層において高い位置にあると見なされる場合が多い。しかし、韓国語では人称代名詞が人間固有名に比べ有生性階層でより高い位置にあるという仮定は成立しにくいと考えられる。また、韓国語の植物名詞は、無生物と有生物の特性を持ち合わせており、境界的名詞句に分類したが、無生物名詞句により近似したものと思われる。さらに、「대중 (大衆)、민족 (民族)」などの集団を表す名詞は、他の人間普通名詞より有生性の度合いが低く、人間普通名詞において「親族」>「一般」>「集団」の階層が設定されることも特徴的である。

第四に、名詞句の有生性階層は多様な文法現象と相関関係を持つ。本稿では韓国語名詞句の有生性階層が助詞「에게」と「에」の選択に非常に体系的に関与していることを明らかにした。また、この階層は韓国語において、「能動文と受動文における主語の選択、意味構造における動作者の解析、文の主題選択」などの他の文法現象とも有意味な相互関連性を示すものと考えられる。

## 注

- 1 本稿は2010年に発表した拙稿「선행명사구의 유정성과 조사 「에게/에」의 선택 (先行名詞句の有生性と助詞「ege/e」の選択)」(『언어사실과 관점 (言語事実と観点)』26, 延世大学校言語情報研究院)を加筆・修正した上で翻訳したものである。
- 2 以下では「에게・에」とする。
- 3 Comrie (1981;1989)、Klaiman (1988)、Croft (1990)、Yamamoto (1999)を参照のこと。
- 4 本研究では、コーパスに現れた用例をそのまま提示することを原則とする。ただし、用例が長すぎる場合には、「…」の記号を使用し、必要ではない部分は省略した。統語的検証では、記述の効率化のため、実際の用例に若干の加減を施した場合もある。本研究で提示した用例の大部分は、「新延世コーパス」から抽出した。その他、Googleや「21世紀世宗計画コーパス」で検索された用例を補助的に用いた。
- 5 角田 (2009:41-65) では、Silverstein (1976) と Dixon (1979) などの階層を用いて、日本語の能動文と受動文の使い分け、「は」と「が」の分布、「こと」の分布に関する規則、無生物主語の他動文が可能な条件を明らかにした。
- 6 Comrie (1981;1989:197-199) は、有生性階層を個体化や顕著さの階層に還元するという考え方について、顕著さはそれ自体原始概念としてではなく、むしろ有生性階層を構成する様々な他の要因、すなわち「厳密な意味での有性性、定性、単数性、具体性、固有名詞の付与可能性」などの相互作用の結果として説明される以上、結局循環論に陥る危険があると言う。
- 7 人名は、人称代名詞や人間普通名詞と異なり2語節以上のものもあるため「人間固有名詞」ではなく「人間固有名」という用語を使うことにする。
- 8 本研究で使用している「個別性」という概念は、基本的にYamamoto (1999) の「個別化尺度」に従うものである。Yamamoto (1999:27-35) によると、個別化尺度は、「我々がある個体を明確に範囲が決まっており、区別が可能な個体として判断する度合であり、個別化は有生性に貢献する」と言う。指示表現に内在する意味が指示対象になる一人の具体的かつ個別の人間に近くなるほど個別性が高くなる。そして個別性の度合いが高いほど、有生性階層においてより高い位置にあるようになる。
- 9 Yamamoto (1999:33) から再引用した例である。Yamamoto (1999:33) はこの文の3人称代名詞「him」は「全体としての個人人間(「Whole」 individual person)」であると分析した。
- 10 このような見方は、홍기문 (1947) と 과학원 언어 문학 연구소 (1960) でも見られ

- る。홍기문(1947:169-172)では、名詞を大きく普通名詞と固有名詞の2種類に分類し、普通名詞は再び「動物名、形体名、質料名、抽象名」に、固有名詞は「人名、地名、種名」に細分する。「植物」は、「鉱物、日月、星辰」などと共に一定の形を持っているものを表す「形体名」に分類されている。과학원 언어 문학 연구소(1960:140)は、命名される対象の性質によって名詞を「活動体名詞」と「非活動体名詞」の2種類に分類する。活動体名詞は「人物や動物」のように活動能力を持っていると思われる名詞であり、非活動体名詞は人物や動物以外の「植物、機械、事件、物、他の対象」を命名する名詞とされている。
- 11 「新延世コーパス」は、2008年に延世大学の徐尚揆教授が中心になって作ったものである。約100万語節規模の現代韓国語書き言葉均衡コーパスであり、「延世コーパス1」の構成方法を基に最近10年間(1995～2004年)の新しいテキストで再構成されている。テキストの構成比率は、「新聞33%、雑誌20%、本(小説やエッセイ)18%、本(趣味や教養)10%、本(手記や伝記)9%、教科書5%」とされている。
- 12 最初に抽出されたのは、「에게」の用例が3,717例、「에」の用例が39,549例であった。その中で、非文、分析のエラー、述部が省略された例、「에게」との対応関係がない「에」固有の用法(時間、手段、原因など)を除いた後、3,591例の「에게」の用例と28,998例の「에」の用例を対象に頻度を調査した。
- 13 (23a)～(23e)の例は유현경(2007:268-271)でも指摘されている。先行名詞句の有生性の素性が述語によって制限され、常に助詞「에」のみが出現するとしている。
- 14 この927例のうち、「에 대하여(～について)、에 따르면(～によると)」のような固定的な表現が768例であり、全体の70%以上を占めている。
- 15 韓国語の助詞が名詞句などの句単位につく範疇であることは、これまでの研究で明らかになっており、助詞「에게」と「에」も、先行名詞句全体に接続される。ただし、先行名詞句の分布調査においては、その特徴をより明確に表すために、名詞句の中心となる体言範疇を中心に頻度を算出した。
- 16 名詞句には有生物と無生物の中間的な属性を持つ境界的名詞句が一部存在する。詳しいことは3節で述べる。
- 17 T-scoreとMI-scoreの算出および解釈については九州大学留学生センターの斉藤信浩氏からご教示を受けた。
- 18 研究対象とされたコーパスが書き言葉コーパスであることも一つの要因として作用したのであろう。話し手と聞き手の双方向的な相互作用が主をなす日常会話のテキストはほとんど含まれていなかったため、これが頻度に影響を与えたと考えられる。

## 参考文献

- 고영근 (2005), 「형태소의 교체와 형태론의 범위－형태음운론적 교체를 중심으로－」, 『국어학』 46집 19-52쪽, 서울: 국어학회.
- 과학원 언어 문학 연구소 (1960) 『조선어문법1 (어음론, 형태론)』, 평양: 미상 (1961.3. 동경학우서방 번인. 1990.2. 서울 탑출판사 재영인)
- 김은일 (2000), 「유생성의 문법」 『현대문법연구』 20 71-96쪽, 서울: 현대문법학회.
- 김형정 (2010), 「선행명사구의 유정성과 조사 「에게/에」의 선택」, 『언어사실과 관점』 26집 141-196쪽, 서울: 연세대학교 언어정보연구원.
- 김형정 (2012), 「치격 조사의 결합 관계를 통해서 본 한국어 유정성 연구」, 연세대학교 국어국문학과 박사학위논문.
- 김형정 (2012), 「작용자 (Actor) 로서의 ‘NP에게’ 와 ‘NP에」, 『국어학』 제65집 185-218쪽, 서울: 국어학회.
- 스테판 크눙 (2008), 「한국어 ‘피동성 표현’의 지위: 유형론적 문법화의 관점에서」, 『한글』 282호 155-194쪽, 서울: 한글학회.
- 연재훈 (1995), 「기능－유형 문법에서의 분석과 설명」, 『언어학』 제17호 203-230쪽, 서울: 한국언어학회.
- 유현경 (2007), 「‘에게’와 유정성」, 『형태론』 9권 2호 257-275쪽, 서울: 형태론학회.
- 홍기문 (1947), 『조선문법연구』, 서울: 서울신문사 (『歴代韓國文法大系』, 金敏洙·高永根 編, 第1部 第15冊).
- 奥田靖雄 (1983) 「に格の名詞と動詞とのくみあわせ」 『日本語文法・連語論 (資料編)』 281-323頁 言語学研究会 編 東京: むき書房.
- 角田太作 (2009) 『世界の言語と日本語 改訂版』 東京: くろしお出版.
- ハン·ナム스 (韓 南洙) (1979) 「現代朝鮮語における格助詞－에게 (－ege) について」 『言語の研究』 547-596頁 言語学研究会 編 東京: むき書房.
- 松本泰文 (2006) 「に格の名詞と形容詞とのくみあわせ」 『連語論と統語論』 16-136頁 東京: 至文堂.
- Comrie, B. 1981. *Language universals and linguistic typology*. 2nd ed. Oxford: Basil Blackwell.
- Croft, W. 1990. *Typology and universals*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Dixon, R.M.W. 1979. Ergativity. *Language*. Vol.55 No1. pp 59-138.
- Foley, W.A. and Van Valin, R.D., Jr. 1985. Information packaging in the clause In T. Shopen (ed.), *Language typology and syntactic description*, Vol.1.: *Clause structure*. pp 282-364. Cambridge: Cambridge University Press.
- Klaiman, M.H. 1988. Affectedness and control: a typology of voice systems. In *Passive and voice*, Shibatani, M. (ed.)

- Langacker, R.W. 1991. *Foundations of cognitive grammar*, Vol. II: *Descriptive application*. Stanford, California: Stanford University Press.
- Yamamoto M. 1999. *Animacy and reference: A cognitive approach to corpus linguistics*. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins Publishing Co.
- Palmer, F.R. 2000. 문법역과 문법 관계. 이영민 옮김. 서울: 도서출판 역락 [*Grammatical roles and relations*. Cambridge: Cambridge University Press, 1994]
- Silverstein, M. 1976. Hierarchy of features and ergativity. In Dixon, R.M.W(ed.), *Grammatical categories in Australian languages*, pp 112-171. Canberra: Australian National University.

要旨

## 한국어 명사구의 유정성 위계

김형정

본 연구는 한국어 조사 ‘에게’·‘에’와 선행명사구의 결합관계를 분석하여 한국어 명사구의 유정성 위계를 세우는 것을 목적으로 한다. 아울러 유정성 위계에 관여하는 제 특성에 대해서도 구체적으로 기술한다. ‘에게’와 ‘에’의 선택은 한국어에서 명사구의 유정성의 정도를 보여 주는 가장 직접적인 표식임에도 불구하고 유정성과 조사 ‘에게’·‘에’의 상관관계에 대한 연구는 거의 이루어진 바 없다. 이는 조사 ‘에게’와 ‘에’는 선행명사구의 유정성 자질이 [+유정] 인지 [-유정] 인지에 따라 양자택일되는 대응형태라고 보는 전통적인 관점을 아무런 의심없이 받아들였기 때문이다. 그러나 본 연구에서는 ‘유정성’을 분명한 경계를 가지는 이분적인 범주가 아니라 ‘원형성’과 ‘정도성’을 가지는 위계적 범주로서 파악한다.

조사 ‘에게’·‘에’와 선행명사구의 결합관계에 대한 분석 작업은 크게 두 가지 방향에서 이루어졌다. 말뭉치 용례에 대한 분포 조사 및 통계적 검증과 같은 양적인 측면의 연구와 해당 용례에 대한 의미적·형태적 분석이라는 질적인 측면에서의 검토가 그것이다.

이러한 분석을 통해 ‘1) 유정물명사구 > 유정물과 무정물의 경계적 명사구 (집단명사 (인간을 구성원으로 한 조직이나 지역명), 식물명사, 특별한 사물명사 (로봇, 인형, 자동차, 컴퓨터) > 무정물명사구’, ‘2) 사람 유정물명사구 (인칭대명사, 사람고유명, 사람보통명사) > 사람 이외의 유정물명사구 (유사인간명사, 동물명사)’, ‘3) 인칭대명사 > 사람보통명사’, ‘4) 사람고유명 > 사람보통명사’, ‘5) 사람보통명사 (친족) > 사람보통명사 (일반) > 사람보통명사 (집단)’ 등의 위계를 확인할 수 있었다. 또한 ‘엄밀한 의미에서의) 유정성, 인간성, 동작주성, 개별성, 지시성, 한정성, 단수성, 발화참여도’ 등의 여러 가지 특성이 한국어 명사구의 유정성

위계와 관련을 맺고 있음을 알 수 있었다.

Animacy Hierarchy in Korean

Hyeong-jeong KIM

**Keywords:** 에게 (ege), 에 (e), animacy, animacy hierarchy